



藩主が大奥へ入る際にも「表御^メ切」

他方、藩主が大奥に入って行かう年始・節分・月見などの年中儀礼も、「表御^メ切」かそれに準じる形で行われていました。

さらに^{なりつぐ}齊承・慶永の代では、参勤交代後に藩主付の奥向女中たちが到着^{*}した後には、夕食は大奥で「表御^メ切」でとるのを定式（きまったやり方）としていました。つまり藩主が夕食や儀礼などで奥向奥方（大奥）に長時間滞在する際にも日常的に「表御^メ切」が行われていたのです。

これまでは大奥（奥向奥方）にあるお錠口のみが知られてきましたが、資料に基づいて「表御錠口」の役割を検討すると、錠口のなかにいたのは女性だけではなく、藩主や側向役人ら男性もいたことが確認できます。

さらにその「表御錠口」をしめ切り、表向から奥向を閉鎖する「表御^メ切」に注目すると、奥向において男性の空間（奥向表方）、女性の空間（奥向奥方）というジェンダー上の制約を一時的・限定的に超えて、江戸城大奥からの女使や親戚大名、藩主家族、側向役人・奥向女中などが交流する姿が垣間見えてきます。

★ 19 世紀前半以降の福井藩では、鳥取藩池田家と同様に参勤交代時に藩主付奥向女中は、藩主とは別行程でしたが江戸と福井を往来していました。

